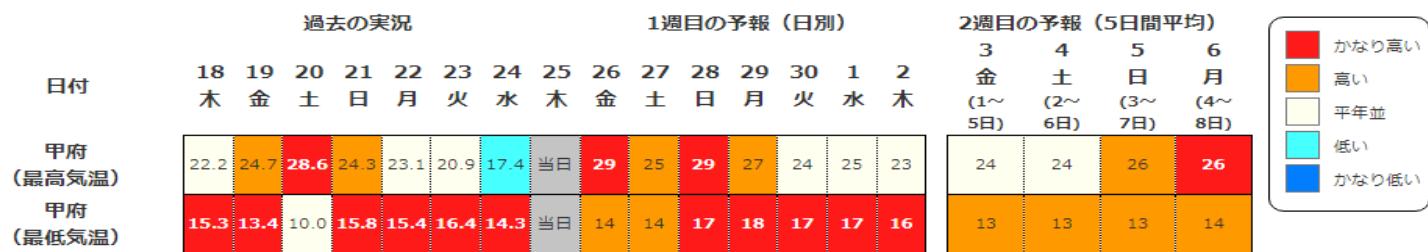


5月中旬までは気温が高い予報、徒長・苗焼けに注意

- 4月25日発表の1ヶ月予報では、気温は5月中旬までは平年より高く、降水量は平年並みが多く、日射量は少ない確率がやや高い予報となっています。30°Cを超える日もあり、高温条件下では苗が徒長したり、苗焼けを起こしやすいので温度管理に十分注意してください。



高温時の育苗後期・硬化期のポイント

温度管理 ハウスやトンネル内の温度は、こまめに確認を

- ハウスやトンネル内の温度は、日中20~25°C、夜間10~15°Cを目安に換気や保温に努めましょう。予報では高温となる予想なので、特に気温が上がりやすい晴天時は徒長しないよう換気をください。また朝、低温が予想される場合は、保温資材を利用して保温してください。
- 田植1週間前からは、霜の心配がない限り育苗ハウスやトンネルを開放して苗を外気に慣らすようにしましょう。



水管理 かん水は、朝1回が基本

- かん水は、十分な水量を朝1回が基本です。夕方のかん水は、床土の温度を下げ、過湿・カビの原因になるので避けましょう。
- プール育苗は、1.5葉期に床土の高さまで入水し、ハウスを開放。2葉期以降は箱上1cmが目安です。

追肥 苗の葉齢を確認し、適期に追肥を

- 稚苗は育苗期間が短いので基肥だけで充分ですが、中苗は追肥したほうが良苗ができます。方法は、第2葉展開時と第3葉展開時にそれぞれ1箱当たり硫安5gを500ccの水に溶かしてジョウロで散布してください。
- 床土に緩効性肥料(育苗一発肥料など)を使用した場合は追肥は必要ありません。



水稻共済に加入しましょう！

もうすぐ田植が始まります。
 台風や長雨、いもち病などの
 災害に対する備えは万全ですか？
 水稻共済に加入して多発する災害に備えましょう。

本田準備【土づくり・耕起・基肥】

土づくり資材の施用

土づくり資材としては、堆肥やようりん、ケイ酸資材があげられます。堆肥は、土壤の物理性、化学性、生物性を改善しイネが生育しやすい環境を作ります。ようりんやケイ酸資材は、イネの生育に必要な養分の供給源となるとともに気象変動や病害虫に強い植物体を作る作用があります。

表1 土づくり肥料の施用量と効果

資材名	施用量	施用効果
ようりん	30kg／10a	初期分けつの発生促進、根の伸長や登熟向上
ケイカル	100kg／10a	茎葉を硬くし、病害虫に強く、登熟・食味向上

基肥の窒素量

表2 品種別の基肥の目安

(単位：窒素成分kg/10a)

品種	コシヒカリ	ひとめぼれ	ヒノヒカリ	農林22号	農林48号	あさひの夢
施肥量	4	6	7	4	4	7

耕起深は15cm以上を確保

- 水田を耕す際に十分な深さで耕起しないと、根域が狭くなり根の養分供給力や水分保持力が低下します。 また、作土量に対し稻わら量の割合が高まり、ワキ(土壤の異常還元)が発生しやすくなり、分けつなど生育に影響が出る場合があります。
- トラクターの馬力に応じたスピードで耕起し、耕起深15cm以上を確保して根張りの良い登熟期の高温に抵抗力のある稻を作るように努めましょう。

土づくりの留意点

- 基肥は耕起後に施用して、肥料成分が作土層の上部に分布するようにしましょう。
- 基肥(速効性肥料)は、流亡しやすいので代かき直前に施用しましょう。また、基肥一発肥料(緩効性肥料)は、田植10日前以内に施用しましょう。



NOSAI 山梨 山梨県農業共済組合 <https://www.nosai-yamanashi.or.jp>

■中央支所

TEL:0553-22-5056

■北部支所

TEL:0551-23-1111

■南アルプス支所

TEL:055-282-0443

■富士支所

TEL:0554-45-6611

■本所

TEL:055-228-4711